

全通協 BCP の概要

2015.6.10

全通協

「全通協 BCP」については、2011 年 3 月の東日本大震災の経験を踏まえ、緊急要求時の対応、一社製造品の対応等を検討する中で、危機管理上サプライチェーンの確保という観点から、逐次その確立に努めてきました。

その中で内閣府から示された地震や津波に関するより現実的な被災想定に対応して、2014 年 5 月 15 日「地震による工場被災想定 BCP」等を制定しました。更に、2015 年 3 月 19 日「南海トラフ巨大地震津波による被災想定 BCP」の制定により、「全通協 BCP ブック」の完成に至りました。

「全通協 BCP」は、中核をなす3つの BCP、即ち「地震による地震による工場被災想定 BCP(A)」、「南海トラフ巨大地震津波による被災想定 BCP(B)」、「海外生産品の BCP(C)」からなり、それらを支えるものとして、「安定供給対応標準」、「一社製造品 BCP(D)」から構成されます。

これらの BCP の検討にあたっては、『納入ショート物品なし』を実現できるよう、影響を受ける工場や物品を特定し、地震や津波による工場被災や緊急要求量を想定しました。その上で「想定される要求量」に対する「納入能力」を対比させ、全通協グループとして納入能力向上の工夫を重ねました。

今後も状況等の変化に応じ、見直し、維持を図り全通協BCPを運用してまいります。

全通協BCPの構成

A. 地震による工場被災想定BCP

すべての想定地震に対して、影響を受ける工場と物品を対象にシミュレーションを実施

B. 南海トラフ巨大地震津波による被災想定BCP

最大クラスの南海トラフ巨大地震津波を想定し、影響を受ける工場と物品を対象にシミュレーションを実施

C. 海外生産品BCP

すべての海外生産品の輸送上のリスクについて、シミュレーショングラフを作成しその影響を確認

D. 一社製造品BCP

バイヤと共有在庫を確保することでリスク管理を実施

E. 全通協オフィスBCP

全通協オフィス機能停止を想定し、代替オフィスの立ち上げ(更改予定)